

試料・情報利用研究計画書(概要)

審査委員会 受付番号	2019-1011	利用形態	共同研究	利用する 試料・情報	対象:三世代コホートに参加した妊婦 試料:なし 情報:全ゲノム情報、調査票情報(ストレス、生活背景)、メ タボローム情報
主たる研究機関	名古屋大学医学系研究科			分担 研究機関	東北大学医学系研究科 東北メディカル・メガバンク機構
研究題目	妊娠中及び産後における精神的健康に関する研究			研究期間	2019年12月～2022年3月
実施責任者	富田 博秋	所属	東北大学医学系研究科 東北メディカル・メガバンク機構		職位 教授
研究目的と意義	<p>女性のライフサイクルにおいて、妊娠中及び産後は身体的・心理社会的負担が大きく、心身のバランスを崩しやすい時期です。発症頻度が高い産後うつ病を放置することは母親のみならず、子どもの成長・発達に悪影響を及ぼす可能性があるため、早期発見・介入が重要といえます。この妊娠中から産後にかけての三世代コホート調査で確認された産後うつ群に特徴的な代謝物の変化を裏付けるため、名古屋大学で行われている前向きコホートでの調査結果との比較検証を行うことにより、産後うつ病発症における生物学的な要因を明らかにします。</p>				
研究計画概要	<p>東北メディカル・メガバンク機構三世代コホート調査で得られた産後うつとゲノム・オミックス情報との関連について、名古屋大学で実施している「妊娠中及び産後における精神的健康に関する研究調査」の同結果と比較することにより、産後うつに関連する遺伝・環境要因を解明します。これらの関連解析はToMMo スーパーコンピュータ内で実施します。</p> <p>また、名古屋大学の試料から遺伝子多型情報を取得する際に、地域住民コホートと三世代コホート調査参加者のゲノム情報から成る全ゲノムリファレンスパネルの情報を利用します。</p>				
期待される成果	<p>この研究を通じて、産後うつに関連する体質、環境の影響を明らかにすることで、それらに合わせた発症予防や治療法の開発につなげていくことができると考えています。</p>				
これまでの倫理 審査等の経過	<p>2019年12月 名古屋大学倫理委員会承認(2007-0513-8) 2019年12月 東北メディカル・メガバンク機構倫理委員会承認(2019-4-081)</p>				
倫理面、セキュリ ティー面への配慮	<p>本研究課題は名古屋大学と共同で実施されるため、ToMMo の研究者に加えて名古屋大学の研究者が、利用承認を得てToMMo スーパーコンピュータ内で上記の情報を利用した解析を行います。</p>				
その他特記事項	<p>受託研究費(AMED 長寿・障害総合研究事業)</p>				
* 公開日	<p>令和元年12月26日</p>				